

日本漢方協会通信

26年8月

7月27日(日)慶應義塾大学薬学部・芝共立キャンパスに於いて、恒例の「薬局製剤実習講座」が実施されました。薬局業務に携わる方々を始め、薬学部学生の方など、約100名という多数の皆様のご参加をいただきました。

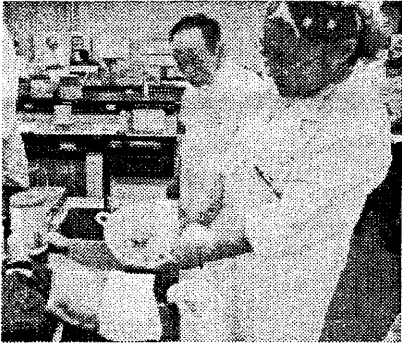
熱心に実習されている皆様の様子を一部ご紹介いたします。

<丸剤：乾姜人参半夏丸>

<日本漢方協会ホームページより>

乾姜人参半夏丸は、エキス剤の市販が無く、薬局製剤のメリットを活かせる処方です。

この丸剤は、生姜汁米糊を結合剤として用います。今回はその製剤のコツと実践を学びました。



1) 生姜(野菜のショウガ)はよく洗って、ヒゲ根や砂などが残ってはいれば落としておきます。



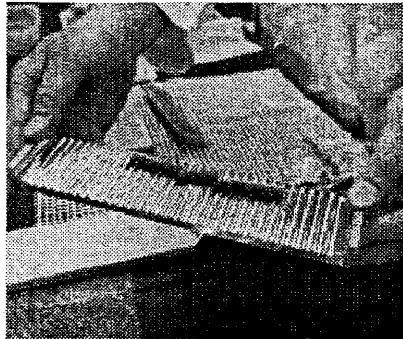
2) 生姜汁を得るため、すりおろします。ここまでは調理と同様です。薬食同源ですね。



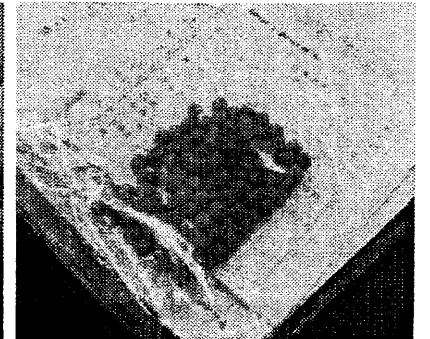
3) 生薬の品質は、製剤の品質に直結します。秤量する前に、各生薬の匂い、味、異物などを、日本薬局方の記載に則って確認します。



10) 予備球を細長く伸ばし、1丸約0.2gの球形の丸剤に仕上げます。



11) ステンレス製の製丸器を使って、きれいに製丸できました。



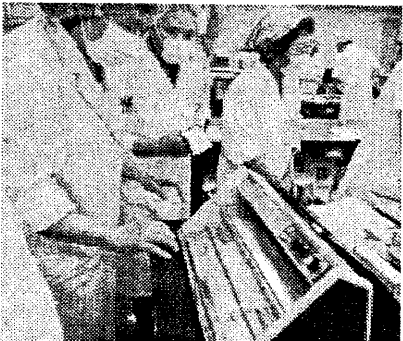
12) 完成。本来は一晚乾燥工程を要しますが、実習時間の都合上、ご帰宅後に乾燥していただきます。

<煎剤：麻杏甘石湯>

「傷寒論」に則り、マオウを先に煎じられるように製剤しました。



1) まず、キョウニン、カンゾウ、セッコウを秤量します。



2) 和紙袋へ移し、ヒートシーラーで封をします。



3) 逆さにして、こぼれてこなければ大丈夫。